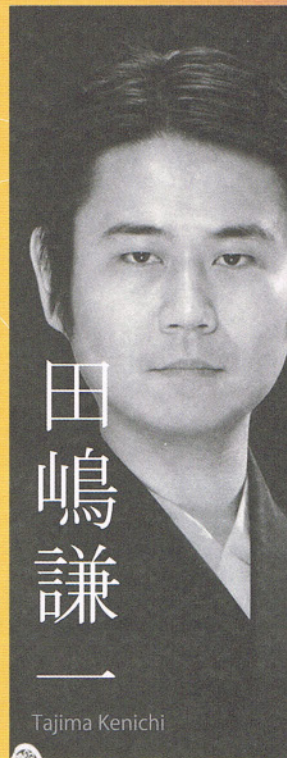
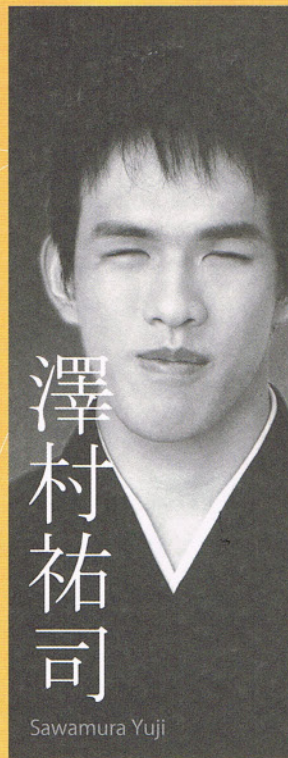
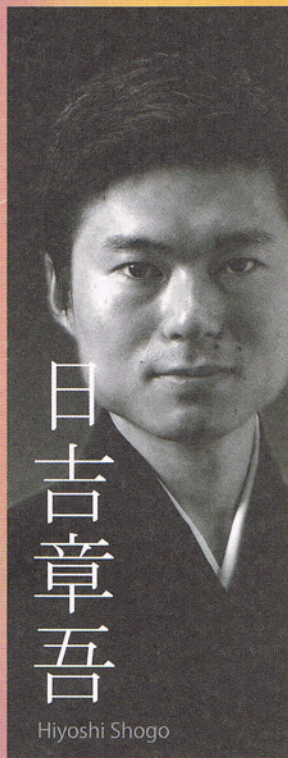


尺八
三絃
箏

古典の 真髓への 挑戦



7月
平成27年

25日(土) / 長崎県

26日(日) / 福岡県

27日(月) / 山口県

28日(火) / 大阪府

29日(水) / 山梨県

会場詳細は、裏面をご覧ください。

尾上の松 作者不詳

三絃 / 澤村祐司 箏 / 日吉章吾 尺八 / 田嶋謙一

みだれ 八橋検校作曲

(※7/29 山梨公演のみ「千鳥の曲」 吉沢検校作曲)

箏 / 澤村祐司 日吉章吾

鶴の巢籠 海童道道曲

尺八 / 田嶋謙一

八重衣 石川勾当作曲

三絃 / 澤村祐司 箏 / 日吉章吾 尺八 / 田嶋謙一

■お問い合わせ先

澤村祐司 090-9012-3861 sawamura.yuji@gmail.com

日吉章吾 050-3736-8778 info@hiyoshishogo.com

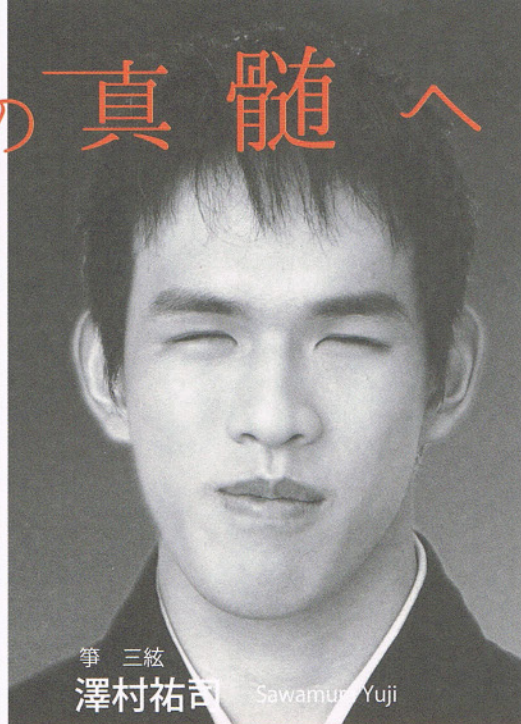
田嶋謙一 080-3002-7053 tajimakenichi55@gmail.com

古典の真髄への挑戦



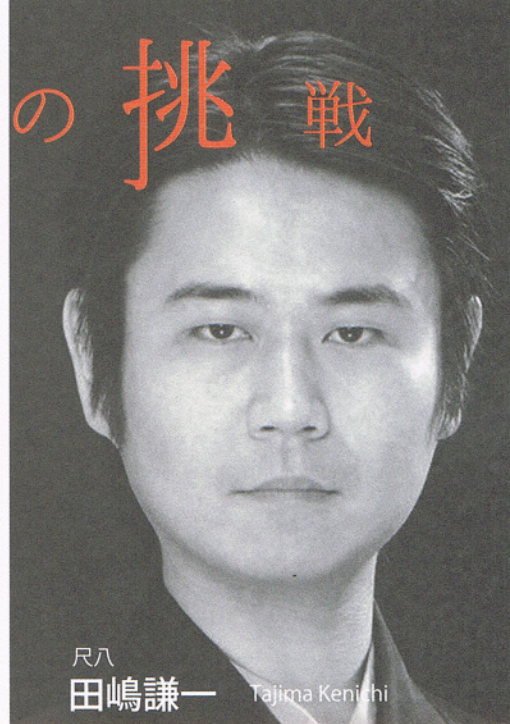
箏
日吉章吾 Hiyoshi Shogo

生田流箏曲の手ほどきを三木千鶴氏に受ける。金津千重子氏に生田流箏曲及び三絃を師事。胡弓を高橋翠秋氏に師事。2009年東京藝術大学音楽学部邦楽科箏曲専攻を卒業。2011年同大学院修士課程箏曲専攻を修了。2014年利根英法記念邦楽コンクール一般の部最優秀賞。千鶴の会、よいろの会、重音会会友他多数。古典作品に造詣を深める一方、邦楽と他の分野との接点を見つめ、現代における古典のあり方、次代につながる邦楽とは何かを模索している。



箏 三絃
澤村祐司 Sawamura Yuji

1981年3月1日東京都出身。生田流箏 三絃を、宮城社大師範 金津千重子に師事。東京藝術大学音楽学部邦楽科を経て、同大学院修士課程修了。伝統的な古典曲(地唄)などの演奏をはじめ、作曲や編曲にも取り組んでいる。詩と音楽のコラボレーション集団“VOICE SPACE”代表。箏曲『宮城会』『重音会』『森の会』『よいろの会』『箏七星』所属。第2回八橋検校賞受賞。第19回くまもと全国邦楽コンクール優秀賞受賞。



尺八
田嶋謙一 Tajima Kenichi

12歳より尺八を始め、父である直簫流尺八宗家・田嶋直士に師事。2006年東京藝術大学邦楽科尺八専攻を卒業。同大学邦楽科助手。2014年第69回文化庁芸術祭新人賞受賞。国内外で古典を中心とした数々のリサイタル・招待演奏を行う。様々なジャンルの音楽とコラボ。大学などの教育機関やイベントで尺八に関する特別講義、演奏会企画、舞台での音楽監督などの活動を行う。「田嶋謙一オーケストラ」主宰 NPO法人邦楽普及協会理事「和楽器オーケストラあいおい」「日本三曲協会」会員

7月

- 25日(土) 護国寺
〒855-0852 長崎県島原市寺町 TEL 0957-62-2411 18:30 開場 19:00 開演
- 26日(日) 古賀政男記念館 (※入館料 300 円別途必要)
〒831-0026 福岡県大川市大字三丸 844 TEL 0944-86-4133 13:30 開場 14:00 開演
- 27日(月) 周南市文化会館 3F 展示室
〒745-0874 山口県周南市公園区 5854-41 TEL0834-21-7444(岡寺) 18:30 開場 19:00 開演
- 28日(火) 大阪田嶋宅
〒553-0001 大阪市福島区海老江 3-13-3 TEL06-4797-3441 18:00 開場 18:30 開演
- 29日(水) 旧高野家住宅 甘草屋敷
〒404-0042 甲州市塩山上於曾 1651 番地 TEL0553-33-5910 18:00 開場 18:30 開演

■お問い合わせ先

澤村祐司 090-9012-3861
sawamura.yuji@gmail.com

日吉章吾 050-3736-8778
info@hiyoshishogo.com

田嶋謙一 080-3002-7053
tajimakenichi55@gmail.com



邦楽ジャーナル編集長

田中隆文

彼らの奏でる美しい音色と古典の情緒を是非今、聞きにいらしてください！

「三曲」(箏・三味線・尺八の合奏)の世界では、古典を理解し本格的に取り組む強い意志と若手屈指の実力をもって、澤村・日吉・田嶋の3人が現れました。彼らは間違いなく、未来の日本の音楽を背負って立つトップ奏者となるでしょう。

わたしは応援しています。日本の伝統楽器は、今や様々な音楽ジャンルに進出し、活動は多岐にわたっています。その根底には数百年にわたって培われてきた「古典」があります。とても奥深く、洗練されたものです。しかし、邦楽愛好人口の減少と共にそのニーズが減り、若手奏者が古典に取り組むこと自体、難しい時代となってきました。そんななか、